

講義名	研究演習Ⅰ（全学部）				
講義コード	15217	授業形態		開講期・曜日・時限	後期 月曜日 5時限
担当教員	川合 宏之			ナンバリング・コード	
学部・学科				演習分野	
経営学科・マーケティング学科 経済学科・経済情報学科				教育学・キャリア教育	
概要説明					
◇ゼミ全体の活動 本演習は、「なすことによって学ぶ」こと、つまり実践活動を重視しています。実際に学校教育現場で教育的活動の補助、具体的には子どもの遊びや学習の支援活動を行います。私の研究フィールドである高校だけでなく、小学校や中学校、地域など学外の様々な機関との連携により、児童生徒の集団的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもをより深く理解し、他者と連携協力して関わることのできる資質を養っていきます。 現行の学習指導要領では、学校は「地域の中の学校であること」、つまり学校と地域社会との連携をより強調しています。実践活動を通して地域社会とのコミュニケーション力や企画力、創造力を養うことの意義を学んでほしいと思っています。 ◇学年ごとの活動 「研究演習Ⅰ」では、実践活動をベースに、自分の考えを表現する、他者のさまざまな考えに触れ、共有するといった活動を展開します。 「研究演習Ⅱ」は、実践活動をベースに、自分なりのテーマをもって、研究を深めます。文献購読によって、議論や研究のための学習をするとともに、個人研究のテーマをしばらく卒業研究につなげます。 「卒業研究」は、これまでの学びの集大成として、卒業論文の執筆に取り組みます。就職活動も含めて、個別指導を重視します。					
主な卒業論文のタイトル					
「高校生と大学生の視野の違い」 「生徒と子ども」 「高大連携が生む相互成長の効果分析 ～フィールドワークの体験から～」 「高大連携授業における高校生のキャリア意識と学習意欲の変化」 「高大連携活動の成果とこれから」 「高大連携の必要性について」 「高大連携における学習効果－実践研究の事例から－」 「高大連携の重要性 ～ナナメの関係～」					
教員よりの要望					
本演習は実践活動を重視しているため、以下のことを学生に求めています。 ①企画を学生自ら立案・実行し、またそうした活動を他者に向けて情報発信できること。 ②活動を進める場合は、ほとんどがグループでの協働作業となるため協調性を大切にできること。 ③ゼミの時間以外で活動に費やす時間も多いため、意欲的・積極的に取り組めること。					
選考方法					
面接、演習申込書、成績（単位取得状況）などによって、総合的に判断します。					

評価方法	
出席はもちろん、ゼミへの取り組みの態度や成果、貢献度などによって総合的に評価します。	
教員英字氏名	研究室
Hiroyuki Kawai	3405研究室（研究棟III4階）
最終学歴	
関西大学大学院 心理学研究科 博士課程後期課程 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）	
学位	
博士（心理学）、教職修士（専門職）	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
教員プロフィールを参照してください。 https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_ka/kawai	
趣味・特技	
テニス、映画鑑賞、資格取得	
所属	
商学部経営学科	
所属学会	
日本商業教育学会、経済教育学会、日本キャリア教育学会、秘書サービス接遇教育学会	
専門分野	
高等学校商業教育、職業教育 キャリア教育、高大接続・連携	
担当科目	
商業科教育法、生徒・進路指導論、職業指導、授業におけるICTの活用、ビジネスプラン論、キャリアビジネス論、研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ、卒業研究	
備考	
実務経験の有無及び活用	
実務経験あり 元高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践をしてきた。それらの知見や経験を生かし、高校や地域など学外の様々な機関との連携により、アクティブ・ラーニングを取り入れたゼミ運営を行っている。	